

☆*****☆

ニッセイメール配信サービス（メルマガ）

【メルマガ内容】

DB基金（ ） DB規約（ ） DC（ ）
厚年基金（ ） 会計基準（ ） その他（○）

【タイトル】 2016年度公的年金財政状況報告、財政検証の意義・役割等
について共有化／第2回社会保障審議会年金部会

☆*****☆

平素より当社社業につき格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

厚生労働省は、2018年6月22日、第2回社会保障審議会年金部会を開き、2016年度公的年金財政状況報告、および財政検証（少なくとも5年ごとに実施することとされている公的年金制度の財政見直し。次回は2019年に実施。）の意義・役割等について事務局からの説明が行われました。

(1) 2016年度公的年金財政状況報告

事務局より、2016年度の単年度収支状況のほか、実績と前回（2014年）財政検証における前提・将来見直しとの比較、乖離分析等について説明がありました。（この内容は、第77回社会保障審議会年金数理部会（2018年3月16日開催）にて報告されたものです。）

厚生年金及び国民年金いずれにおいても、2016年度末積立金は、前回（2014年）財政検証における中位の将来見直しを大きく上回りました。これは、2016年度は賃金上昇率が前提より低下したこと、マクロ経済スライドが発動されなかったこと等による積立金の減少も一部あったものの、2014年度末積立金が将来見直しを大きく上回っていることに加え、2016年におけるプラス要因（実質的な運用利回りの上昇、厚生年金被保険者数の増加、等）が寄与したことによるものです。

(2) 財政検証の意義・役割等について

事務局より、財政検証の基本的な考え方（財政検証にあたっては複数ケースの前提を設定し、その結果についても幅を持って解釈する必要がある、等）や、オプション試算、年金財政に影響を与える諸要素の直近の状況等について説明があり

ました。

オプション試算としては、前回（2014年）の財政検証では、①マクロ経済スライドの仕組みの見直し、②被用者保険の更なる適用拡大、③保険料拠出期間と受給開始年齢の選択制、について試算されましたが、事務局からは次回の財政検証でも、一定のオプション試算を行いたいとの方針が示されました。

次回の財政検証に向けて、委員からは、次のような意見が出されました。

ー公的年金制度は専門用語が多く国民には理解しづらいものとなっている。財政検証をきっかけとした冷静な議論のために、公的年金の情報提供のあり方を検討すべき。

ー単純な年金財政の現況と見通しを検証するだけでなく、次回もオプション試算を実施することにより、より意義のある財政検証とすべき。

今後は、昨年7月に設置された「年金財政における経済前提に関する専門委員会」で年金財政における経済前提の検討が行われるのと並行して、本年秋頃にかけて、社会保障改革プログラム法（2013年12月成立）に挙げられた検討事項※に沿って討論が行われ、来年春頃から財政検証の作業が進められる見通しです。

- ※
- ・マクロ経済スライドのあり方
 - ・被用者保険の適用拡大
 - ・高齢期の就労と年金
 - ・高所得者の年金給付と課税 等

*当日の資料は、以下の厚生労働省HPに掲載されています。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000212815.html>

～メルマガのバックナンバーを掲載しています～

<http://www.nenkin.nissay.co.jp/info/report.htm>

バックナンバーでは、過去の年金NEWS・メルマガに加え、マーケット情報等（Daily市場レポート、臨時市場レポート、第1特約運用状況）をご覧いただくことができます。

=====

日本生命保険相互会社

団体年金部

団体年金コンサルティンググループ

年金NEWS・基金照会窓口

T E L 03-5533-5572

F A X 03-5533-5228

E-mail kikinmadoguti@nissay.co.jp